

令和3年度 日本大学山形高等学校 自己評価票

【本校の目指す学校像】

「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び『自主創造』の3つの構成要素及びその能力」を確実にするため、本校の教育方針「1. 豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。」「2. 自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める。」「3. 心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う。」ことと教育実践の重点目標「1. 学習指導の徹底」「2. 生徒指導の徹底」「3. 特別活動の振興」の位置付けを全教職員で明確化・共有化し、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」を念頭に生徒の育成に最善を尽くす。また、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を、育成知識の量を削減せず、質の高い理解を図るための学習過程の質的改善を推進し、日本大学をはじめ、多くの大学への合格者数が大きく増加することを目指す。さらに、生徒による授業評価アンケート集計結果及び自由記述内容にある内容を精査し、「生徒と向き合う」意識の徹底と「生徒ファースト」による、安全安心な学校づくりを心掛ける。

【本校の特長及び課題】

「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」生徒を育成しつつ、個々人の進路希望を実現させるべくコース別学習指導の体制の下、学力向上を目指し、適切な生徒指導の根幹をなす基本的生活習慣の確立、能動的な学習習慣の確立に努めている。また、地方の私立高校として特別活動の振興に努め、学園全体として文武両道を校是とし、感動と一体感を^{かん}涵養している。

課題は、更なる特色教育の充実を図るとともに、少子化に伴う生徒募集の在り方、財政基盤の確立と校舎の耐震化である。

令和3年度 の取組結果

【概況】

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策に基づいた学校運営であった。しかしながら、感染対策が進み、教育活動をどう進めていくか感染状況の変化に合わせて対応していくことにより、各校務分掌において、昨年度中止、延期を余儀なくされた活動も、感染状況に応じながら、生徒たちの学びを狭めないように、感染拡大防止対策を徹底することによって代替行事や時期を考慮して企画・運営を行ってきた。タブレット端末の導入については、ここ数年ICT教育の推進のための準備・研修を行ってきたが、昨年度の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、通常の学校活動ができなくなった場合においても滞りなく教育活動の継続ができるように10月に1・2年生一人1台導入し、今年度から全学年で導入された。導入によって、教員の教授法、生徒の学びの多様化によって学習活動が更に活性化することを期待していたが、「生徒による授業評価アンケート」の結果においても、教員の「説明」や生徒自身の「復習」の数値が他の項目の伸びを上回っており、導入の効果が表れているものと考えている。生徒募集においては、5回の学校説明会で毎回特進コース説明会を実施したり、ホームページの更新頻度を高くしたりなど様々な活動を行い、全教職員が志願者と入学者増に向けて生徒募集活動に当たった。その結果、推薦・専願者が昨年よりも21名増加し、受験者の大半を占める教育事務所管内で生徒数が105名増加したなかで、総志願者数が91名増加した。校舎の耐震化については、喫緊の課題であるが、現在の校内の環境整備面について、校舎の老朽化はあるものの生徒、教職員の要望を参考としながら少しでも快適に安全・安心な学校生活を送れるよう整備している。今後とも全教職員が協力して継続的に課題改善に当たっていききたい。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」、 「高大接続改革」への 対応	「新学習指導要領」施行に向けての取組として、令和4年度からの新教育課程を日本大学へ申請・承認を経て、令和3年5月に県へ申請した。「高大接続改革」に	B

	向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動を通し、多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の4技能、eポートフォリオの対策を進めた。	
I C T教育の推進	今年度4月からは全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整った。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配付して、I C T機器の活用に向けて本格的に取り組み始めたところである。教員対象に教育I C Tツールであるロイロノート・スクールの研修を行うとともに、大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニング等の学習を進めている。6月の教員研修会では、31名の教員がApple Teacherの資格認定を受けた。中長期的目標と同一。	A
基礎学力の向上	相互授業参観を通して、タブレットを用いた授業展開等、授業の相互点検を行い、教育力の向上を図った。教科部会で振り返りの時間を設け、内容の充実を図った。多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るように取り組んだ。また、各種研修会への参加を促した。	A

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	生徒と担任との二者面談等を行い生徒理解に努め、信頼関係を築いた。	B
	保健室やサポート室と連携を図り、いじめの未然防止・早期発見に努め、組織として対応した。	B
	いじめ発見調査アンケートを実施し、いじめの防止・早期の発見と対応に努めた。	B
	各種研修会へ積極的参加し、指導力の向上に努めた。	C
	ネット被害防止スクールガード事業におけるネットパトロール等を通して、いじめの未然防止やSNSトラブル防止対策に取り組んだ。	B
	重大事態は発生しなかったが、発生した場合のいじめ防止対策推進法及び本校のいじめ対策基本方針に従った対応体制を整えている。	B
基本的生活習慣の確立	新入生に対して入学前に事前指導を実施し、4月のオリエンテーションに於いて、全体指導を行った。	A
	教員全体で共通項目に基づく統一した指導を徹底した。	B
	各学期の始業式後に、学年ごとの頭髪・服装検査を実施した。(2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施)	A
交通安全問題行動の防止	外部講師による生活指導講話を実施した。(「交通安全教室」「薬物乱用防止・SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」)	A
	各クラスや学年集会などでの指導を通して事故防止や交通ルールの遵守などの意識の向上を図った。	B
	登下校時の通学路の巡回指導を実施した。	B
	問題行動の未然防止のため、継続した指導や注意喚起を行った。	B

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動の適正化	部活動に関する活動方針を確認するとともに、発展的な改革は継続中である。部活動の再編成については、部員数の減少等により現在の高校1年から女子バレーボール部と囲碁将棋部、中学3年生からゴルフ部と女子バスケットボール部が部員募集停止とした。	B
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努めたが、今年も新型コロナウイルス感染症のため、いくつかの活動・大会・イベントが中止や縮小となってしまった。	B

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	授業の充実はもとより、進学希望者向けの夏期・冬期学習会の内容を日本大学基礎学力到達度テスト対策として実施し、過去問題に触れさせながら基礎学力の養成を行うことができた。	B
	日本大学学部等説明会（2・3年生徒）は対象学部を「芸術学部、文理学部、経済学部、生物資源科学部、医学部附属看護専門学校、理工学部、国際関係学部」に増やし実施を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により学部等からの派遣が見送られた。それに代わるものとして各学部等のホームページやWebオープンキャンパス・相談会に参加するようアドバイスをするとどまった。	B
	例年どおり日本大学出願基準等説明会を6月に実施したが、今年度より希望する2年生にも参加を促し、2・3年の生徒の意欲向上につなげることができた。	A
	昨年度中止となった日本大学工学部オープンキャンパス バスツアー（2・3年生徒及び保護者）は工学部と連絡を取りつつ実施された。	A
	昨年まで「日本大学」「私立大学推薦入試」「国公立大学」「専門学校」「就職」の5分科会で行なってきた2学年進路説明会（2年生及び保護者対象）は1分科会にしか参加できない形だった。それを改め、スポーツコース・進学コースの生徒全員に日本大学の特徴・魅力を伝えられるよう、「大学進学説明会」を実施した。	A
	生産工学部高大連携教育（3年生徒）は合格発表後すぐに取り組み、大学での学びを意識させることができた。	A
きめ細かい進路指導	学級担任と進路指導部員が連携を密にししながら、生徒の現況をしっかりと捉えて進路指導を行った。	A
	各学年の状況を踏まえた「進路だより」を、Classiを利用して定期的に配信しながら進路情報を提供した。進路情報の提供は生徒のみならず、保護者にも向けられていて進路相談にも応じられる環境づくりがなされている。 また、学習状況や学力分析についてはBenesseのスタディーサポートの活用分析会等を通し、担任がそれらを把握し二者面談等に生かせるようになっている。	B

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒支援を目的とした他分掌との連携	生徒に関わる教員個人だけでなく、生徒指導部や進路指導部といった生徒の事情や背景に関わる分掌とも情報共有した上で連携・対応できた。	B

環境整備に関する毎年のルーティン業務の確認と整理	今年度も新型コロナウイルス感染症への対応が最優先だったこともあり、左記の取組目標を具体化させることができなかった。	C
--------------------------	---	---

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒、教職員、一人ひとりに届く広報活動	1学年とのオリエンテーション、2学年の探究学習とも、スムーズに運ぶことができた。担任一人ひとりというよりは、より組織的な連携が今後必要である。	B
知的興味へ誘う環境作り	日替わり特集本コーナーの頻度を増やし、図書館通路がより充実した。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集に当たり、新たに学業奨学生制度を導入し、受験生の増加を図る	学業奨学生制度の案は作成したものの、今年度の導入には至らず、今後、早期の導入を目指す。なお、様々な教育活動や、学校説明会・部活動体験会等の広報活動も実り、結果的に受験生は増加した。	B
インターネットを利用し、本校の魅力をアピールする	ホームページの記事の更新を迅速に行い、常に新鮮な情報を伝えることができた。また、山形県高校受験情報サイトにバナーを設けるなど、インターネットによる広報活動を行うことができた。	A

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組んだ。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の基本として、こまめな手洗い、不織布マスクの着用を徹底し、健康観察の入力、清掃時の教室、情報・芸術・体育など実習・実技を伴う授業での場面と時間ごとの消毒、図書室における閲覧された本などの消毒や密にならない座席配置、昼食指導とともに、通学時における列車・バス利用の際の感染症予防のための指導を行った。また、感染症に対する新しく正しい情報を吟味した上で、生徒・教職員に提供し、感染症と別の健康被害（例えば熱中症）を同時に予防するべく、季節ごと、状況ごとに対応した。 ・新型コロナウイルス感染対策を含め、今年度4月からは全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整った。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配布して、ICT機器の活用に向けて本格的に取り組み始めたところである。教員対象に教育ICTツールであるロイロノート・スクールの研修を行うとともに、大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニング等の学習を進めている。6月の教員研修会では、31名の教員がApple Teacherの資格認定を受けた。 ・今年度はおおむね年間行事計画どおりに授業等教育活動が遂行できている。一部変更して行った学校行事等は次のとおりである。 4月5日始業式、7月16日終業式、8月23日始業式、12月17日終業式、1月8日始業式は、三密を避けるため放送によるものとし、生徒は担任指導のもと各教室で聴いた。体育祭は2日間から1日に短縮して、2年が7月14日、3年が7月13日、1年は11月18日に実施した。学園祭は予定どおり2日間の日程で行ったが、2日間とも午前中だけの短縮実施とした。11月の2年生の北九州方面への修学旅行も予定どおり実施した。

- ・部活動については、昨年度とは違い感染症対策を徹底しながら部活動の各種大会・公演・コンクールが行われるようになった。ただし、今年度も感染状況によって活動時間や県内・県外問わず他校との交流などに制限がかかったり、大会が直前に中止になったりして選手たちの意欲と競技力の維持・向上を図ることが難しいことがある。
- ・進路指導部では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、進路指導でのミスマッチが起らないよう、生徒の進路希望に対しより細かな情報提供やコミュニケーションが求められた。生徒個々への対応には限界があるが、担任がすべきこと・学年として取り組むべきことを次年度体制の中で更に話し合いながら、その時々状態を踏まえ取り組んでいきたい
- ・図書室の活動として、今までは、全校から募った希望者を対象とし、幼稚園と学童クラブへ出向き、園児、児童へ絵本の読み聞かせを行っていた図書館講座が不可能となっている。代わりに、図書委員会の委員長、副委員長、グループリーダーらの研修の場として、昨年度は絵本の帯作り、今年度はポップ作りを行った。確かにリーダー研修の場としても有意義であるが、読書活動の推進や図書館利用の普及の観点から、全校から募った希望者を対象とした講座を開講したい。その時期のコロナの感染状況を見ながら可能なものを企画していく予定である。また、新入生オリエンテーションの時に、各クラスでミニビブリオバトルを行っていたが、現在は中止している。図書室利用の説明だけで終わらず、何か一つ工夫したビブリオバトル、またはそれに替わるものを行い、図書室の存在を新入生に印象付けたいと考えている。
- ・広報活動については、校長・広報主任による5～6月の中学校への挨拶回り、全教員による5月・9月の中学校一斉訪問は、中学校や本校関係者の感染・濃厚接触扱いにより、一部、延期・訪問中止もあったものの、おおむね実施できた。部活動体験会は、今年度よりHPによる申込みとし、8月に二日間実施の予定であったが、本校関係者の感染により一日のみの実施となった。また、10～12月の学校説明会もHPによる申込みとし、適正人数で予定どおり5回実施できた。
- ・保健衛生部として、今年度もアルコール設置やマスク着用等々、昨年度から行っている「感染症対策」を継続して行う環境下ではあったが、今年度は昨年度より「with コロナ」のスタンスで学校行事を拡大もしくはアレンジして実施できたことは評価できるし自信にもなった。一方で日々行っている予防対策が「マンネリ化」し、生徒だけでなく教職員も含めて危機意識が低下してしまっていることも否めない。「感染対策をそれほど徹底していないが罹患しない＝対策を行わなくて大丈夫」という間違ったバイアスで現状を認識している。感染予防について地道に声を掛け続け、新しい情報を提供して危機感を刺激する働きかけが必要であると考え。
- ・管理運営面では、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、購買部、事務室窓口等で順番を待つ生徒が、密にならないようポスターを作成し注意喚起を行い、さらに、間隔を取るための立ち位置にテープを貼るなど工夫しており、用務員は、階段の手すり、ドアノブ、窓ガラスの取手など、普段生徒、教職員等が接触する場所のアルコール消毒を行っている。また、国・県からの新型コロナウイルス感染症対策等の補助金を有効かつ最大限に活用し、アルコール消毒液やマスク等の消耗品、遠隔授業となった場合のオンライン学習を実施するためのビデオカメラやプロジェクター等を購入し、安全な環境の下、生徒たちの学びの保障に資する対応をすることで、保護者の方々にも安心してもらえるようにした。

令和4年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」、 「高大接続改革」への 対応	「新学習指導要領」への対応として、シラバスと評価の観点・内容・方法、成績評価の方法を、令和3年8月に行われた日本大学附属高等学校等校務分掌研修会の講演「新学習指導要領・2022年度に向けた検討ポイント～観点別評価の導入に向けて～」等を参考として	通年

	作成し、実行に移していく。「高大接続改革」に向けての取組は、「学力の3要素」を踏まえた教育活動をとおり多面的・総合的に評価する大学入学者選抜に備えるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からなる学習活動と英語の4技能、eポートフォリオの対策を進める。	
I C T教育の推進	オンラインでの授業実施に向け、環境を整える。今年度から生徒一人1台タブレット端末を保有しているため、ハードウェア面での環境は整備されつつある。さらに、ハードウェア・ソフトウェアの両面を整備していくとともに、オンライン授業に対応した授業づくりに向け教員が研修を積み、実践していく。Classi（教育プラットフォーム）により、教育面での効果が期待されることに加え、生徒及び保護者へ緊急連絡等を一斉に配信し、情報伝達の迅速性・確実性が得られ、生徒の安全・安心確保につなげる。中長期的目標と同一。	通年
基礎学力の向上	相互授業参観を通して、タブレットを用いた授業展開等、授業の相互点検を行い、教育力の向上を図る。教科部会で振り返りの時間を設け、内容の充実を図る。多様な学力の生徒たちに対応する授業進度・授業時間の確保と規律性のために始業時間を守るように取り組む。また、各種研修会への参加を促す。	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	二者面談や普段からの声掛けを通して生徒理解に努め、生徒との信頼関係を築く。	通年
	保健室、相談室、サポート室と連携を図り、いじめの未然防止と早期発見に努め、組織として対応する。	通年
	いじめ発見調査アンケートを実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。	6月・11月
	各種研修会へ積極的に参加し、指導力の向上に努める。	通年
	ネット被害防止スクールガード事業におけるネットパトロール等を通して、いじめの未然防止やSNSトラブル防止対策に取り組む。	通年
	重大事態への対応については、いじめ防止対策推進法及び本校のいじめ対策基本方針に従い、適切に対応していく。	通年
基本的な生活習慣の確立	新入生とその保護者に対して入学前の3月に事前指導を実施し、入学後のオリエンテーションにおいて再度全体指導を行う。	3月・4月
	共通項目に基づき、教員全体で統一した指導を徹底す	通年

	る。	
	各学期の始業式後に、学年ごとの頭髪・服装検査を実施する。(2学年は修学旅行前、3学年は卒業式前にも実施)	通年
交通安全・問題行動の防止	外部講師による生活指導講話の実施(「交通安全教室」「薬物乱用防止・SNSのトラブルについて」「十代の性について」「タバコの害について」)	通年
	学年集会や各クラスのHRにおいて事故防止や交通ルールの遵守などの意識の向上を図る。	通年
	登下校時の通学路の巡回指導を実施する。	通年
	問題行動を未然に防ぐため、継続した指導や注意喚起を行う。	通年

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
部活動の適正化	部活動に関する滑動方針を確認するとともに、発展的な改革を進める。特に部活動の再編と体育奨学生の新制度導入を進める。	4月～7月：生徒数や教員数を踏まえての部活動の検討と新しい体育奨学生制度の令和5年度入学生からの導入を目指す。
	新型コロナウイルス感染症対策をしっかりとやりながら活動を続け、クラスターにならないように心掛ける。	通年
課外活動の活性化	適切な方針・組織の下、課外活動の活性化に努める。	通年

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	2・3学年対象の学部説明会、推薦基準説明会、3年生対象の大学進学説明会の充実とともに、担任から積極的に日本大学の魅力を伝えていけるよう学校として体制を整える。	通年
きめ細かな進路指導	進路指導部と担任が連絡を密に取りながら、生徒のよりよい進路選択を促していく。また「進路だより」などを発行しながら、タイムリーな情報や取り組むべきことなどを伝えていく。	通年

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
感染症予防対策の再確認	ワクチン接種等の影響等もあり、新型コロナウイルス感染症の予防がマンネリ化してきている。新しい情報を収集しつつ季節や状況に応じた予防対策を地道に発信し続けていく。	通年
生徒への支援や対応を「チーム」で行う	生徒が抱える問題が年々拡大かつ多岐化しているため、学校スタッフだけでは対応できないケースが増え	通年

	ている。校内はもちろんだが、校外にある社会的窓口も含めて「チーム」となって生徒を支援していく。	
--	---	--

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒、教職員、一人ひとりに届く広報活動	コロナ禍での図書館講座の充実を図る。	2学期
知的興味へ誘う環境作り	新着本紹介の充実、ポップ作成など見せ方の工夫を図る。	通年

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒募集に当たり、専願者・総入学者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・専願者を増やすために専願者優遇の入試制度を設ける（基準の見直し・入試時の奨学生制度の導入）。 ・受験者を増やすために入試制度（奨学生制度等）を見直す。 ・教員の生徒募集に対する意識向上を図る（中学生の高校選びや私立高校等の募集の実態等の情報の提供に、より力を入れる）。 	通年
HPの内容の一層の充実と利用を図るとともに、SNSを有効に活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを学校全体で活用する意識を作る（HPの更新をやすくするとともに、各分掌の協力体制を整える（分担・マニュアル作り））。 ・HPに学校説明会・部活動体験会などの申込みバナーを設ける。 ・SNSを利用した宣伝活動を行う。 	通年

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組む。	継続して取り組む

中長期的目標の取組結果

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
ICT教育の推進	今年度4月からは全生徒に対して一人1台のタブレット端末を使用できる体制が整った。教員用のタブレット端末も、非常勤講師を含めた全教員に配付して、ICT機器の活用に向けて本格的に取り組み始めたところである。教員対象に教育ICTツールであるロイロノート・スクールの研修を行うとともに、大型ディスプレイ、短焦点プロジェクターを用いながら、生徒たちの主体的な活動を促すアクティブ・ラーニング等の学習を進めている。6月の教員研修会では、31名の	A

	教員が Apple Teacher の資格認定を受けた。	
--	------------------------------	--

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
校則に関する共通理解の下で、中長期的な視点に立った指導と適切な対応	本校の校則について周知徹底を図り、教員間で温度差のない共通した統一的指導を徹底した。その際、中長期的な生徒指導や支援を行う上で、従来の指導方法だけに固執することなく、社会の実情を把握し、状況に応じた適切な対応について教職員間で継続的に議論した。 学年担任会、生活指導部会等で適切な指導や支援について議論を重ね、指導内容について繰り返し検証・考察を重ねた。中長期的な取組の観点から、校則等の見直しについての議論も含めながら考えた。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
財政基盤の確立	冗費節減はもちろんのこと、ゼロベース予算を基本としながらも、予算執行に当たり、優先順位やその必要性を慎重に再検討するとともに、教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により、経費節減等支出削減を積極的に促進し、財政状況が改善するよう継続して取り組んだ。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

中長期的目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
ICT教育の推進	オンラインでの授業実施に向け、環境を整える。生徒一人1台タブレット端末を保有しているため、ハードウェア面での環境は整備されつつある。さらに、ハードウェア・ソフトウェアの両面を整備していくとともに、オンライン授業に対応した授業づくりに向け教員が研修を積み、実践していく。Classi（教育プラットフォーム）により、教育面での効果が期待されることに加え、生徒及び保護者へ緊急連絡等を一斉に配信し、情報伝達の迅速性・確実性が得られ、生徒の安全・安心確保につなげる。	通年

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
校則に関する共通理解の下で、中長期的な視点に立った指導と適切な対応	本校の校則について周知徹底を図り、教員間で温度差のない共通した統一的指導を徹底していく。その際、中長期的な生徒指導や支援を行う上で、従来の指導方法だけに固執することなく、社会の実情を把握し、状況に応じた適切な対応について教職員間で継続的に議論が重要である。	学年担任会、生活指導部会等で適切な指導や支援について議論を重ね、指導内容について繰り返し検証・考察を重ねていく。中長期的な取組の観点から、校則等の見直しについての議論も含めながら考えていく。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
財政基盤の確立	ゼロベース予算，冗費の節減，教職員の学校経営に対する個々の意識改革の徹底により，経費節減等支出削減を積極的に促進し，財政状況の改善に向け継続して取り組む。	継続して取り組む。